



東日本大震災から4年以上が経ちましたが、被災地のペットたちは今もお過酷な状況にあります。被災地でとり残されたペットたちは、福島県飯館村だけでも約600匹以上とのことです。

避難先から一時帰宅し、短い時間でもペットと触れ合える飼い主もいれば、選択の余地なく諦めざるを得ない飼い主もいるそうです。

また、愛護団体が給餌などのボランティアに通っているもの、現地へ足を運べるのは1週

間に1度ほどで、その間、とりの子たちが増え続ければ、駆除されたペットたちは空腹に耐えているそうです。雪に閉ざされる冬場はもっと過酷で、犬や猫たちは寒さに震えながら、冷たい水を舐めて飢えをしのいでいるそうです。

過酷な状況のペットたち

東日本大震災で放置のままに

ボランティアによってペットたちの避妊、去勢手術も行われていますが、すべての犬猫の手術には至らず2代目3代目と繁殖し、野生化している頭数を把握するのはほぼ不可能のことです。このまま野生化したペッ

トの子たちが増え続ければ、駆除ということになりかねないのではと懸念しています。

すでに飼い主の元へ戻ったペットもいますが、それはほんのひと握りです。廃墟と化した家屋や施設を住処にし、やせ細り

ながらも住み慣れた地をさまよひ、飢えや寒さ暑さに耐え続けている主を待つペットたち。もし、自分が同じような状況におかれ、愛犬を助けたくてもどうすることもできずいたらどうするか？

(福澤 智子)
ふくざわ・ともこ NPO
法人ドッグレスキューしお
んの会代表